

## 名鉄 常滑線・河和線太田川駅付近連続立体交差 土木設計



発注者：名古屋鉄道株式会社  
 所在地：愛知県東海市太田町～高横須賀町  
 事業名：常滑線・河和線太田川駅付近連続立体交差事業  
 （東海連続立体交差事業Ⅲ期）

総事業費：約 340 億円

種別：鉄道連続立体高架橋

構造：RC ラーメン高架橋 58 基

RC 橋脚 3 基

鋼製橋脚 5 基

既設橋脚高上げ改造 40 基

逆 T 式橋台 1 基

RC スラブ橋 91 橋

PC 橋 16 橋

H 鋼埋込み橋 2 橋

鋼床版鋼 I 桁橋 6 橋

事業延長：常滑線 約 2.1km 河和線 約 0.7km

幅員 9.42m～35.3m

ホーム 2F：2面4線，3F：1面2線

延長 165m，幅員 5m～9m

事業認可：2001年9月20日

工期：2008年10月～2012年3月

内土木工事 2008年10月～2011年3月

名鉄常滑線太田川駅は、新名古屋駅から約 17km 南の東海市を南北に貫き、中部空港のある常滑市とのほぼ中央に位置する。さらに太田川駅は常滑線と知多半島の交通輸送の要となる河和線の分岐駅でもあり、東海市の発展に重要な役割を果たしてきた。

しかし、時代とともにモータリゼーションの発展で、鉄道踏切による交通の遮断は交通渋滞を招き、地域の分断など市街地の健全な発展の支障となってきた。そこでこうした状況を解消し、都市交通の円滑化と健全な都市機能の発展を図るために昭和 51 年 1 月に太田川駅以南の都市計画決定がされ、平成 3 年 9 月に太田川駅を含む区間を高架化する都市計画の変更がなされた。

また、この連続立体交差事業と伴に土地区画整理事業、市街地再開発事業が進められ、東海市の表玄関に相応しい整備も進められている。

本連立事業により以下のような効果が期待される。

- 踏切除去による交通渋滞や踏切事故の解消。
- 分断した駅周辺市街地の機能の一体化、魅力ある街づくりの実現化への寄与。
- 高架化により新しく生まれる空間の駐車場、駐輪場、遊び場、歩行者専用道路等への有効利用。
- 駅施設の改良によるバリアフリー化の推進。
- ホーム・コンコースおよびホーム間の連絡通路の混雑の緩和。
- 駅前広場の整備による鉄道施設へのアクセスの向上。